

2015年 7月 30日

兵庫教育大学長 殿

受入研究者

所属・職 特別支援教育専攻・教授

氏名 石倉 健二



外国人研究者短期招へいプログラム研究成果報告書

外国人招へい研究者の研究経過について、下記のとおり報告します。

1. 外国人招へい研究者 氏名 (所属・職・国籍)
Odgerel Dandii (モンゴル国立教育大学・准教授・モンゴル)
2. 研究課題名
モンゴルにおける特別支援学校教員養成プログラムについての研究
(英訳名)
Study of faculty education program for special school teacher in Mongolia.
3. 期間
2015年 6月 21日 ～ 2015年 7月 4日 ( 14日間)
4. 主な研究協力者 氏名 (所属・職・氏名)
井澤信三 (兵庫教育大学・教授)

(注) 必ず招へい研究者の作成した Research Report と併せて、招へい期間終了後1か月以内に、提出してください。 (裏面につづく)

別記第4号様式【招へ研究者作成/By Fellow】

\* Please submit your research report to HUTE through your host researcher within one month after the end of your Fellowship Period in Japan.

To President, HUTE

**HUTE SHORT-TERM FELLOWSHIP PROGRAM**  
**FOR RESEARCH IN JAPAN**  
**RESEARCH REPORT**

(Cover Page)

Affiliation: Mongolian National University of Education

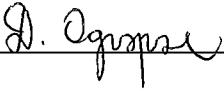
Name of the Host Researcher: Kenji Ishikura

Fellowship Period: From 21. June 2015 To 4. July 2015

Title of the Research:

Study of faculty education program for special school teacher in Mongolia

Date: 27. July 2015

Your Signature: 

\* Future Contact Information

(If you wish HUTE to maintain contact with you after the completion of your fellowship)

(Office/Home)

Fax No.: 

E-mail Address: 

Address: 

(It continues on the reverse.)

## (a) 研究活動、研究討議、講演旅行等の概要

### ①日本学術振興会二国間交流事業の実施に向けて

日本学術振興会二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究（2015年度から2年間）が採用され、それに向けた打ち合わせを行うことができた。特に、モンゴル国立教育大学に新設された特別支援教育専攻科（1年制）で行う集中講義の内容や進め方について、「聴覚障害」「知的障害」「自閉性障害」「肢体不自由」「障害児診断と早期療育」に関する講義が必要であることが一致した見解となった。そして適切なモンゴル語での資料の作成が必須であり、そのためには特別支援教育や障害についての専門家だけでなく、モンゴル語の専門家にも参画してもらう方が好ましいことが確認された。そしてこれらの講義を実施するに際して、資料の印刷やプロジェクターの必要であり、このために必要な機材についても確認された。また、専門用語のわかる通訳が必須であり、兵教大で学ぶモンゴル人留学生の役割分担についても検討された。モンゴル語での資料作成とともに、留学生が大きな役割を果たすことが期待されている。

また、今回の二国間交流事業の中では対象とされないが、通常学校で学ぶ発達障害のある子どもたちへの教育の在り方について検討していくことが、次の大きな課題となっていることが共通理解された。ただしこれには、旧ソ連型の記憶中心の教育方法の転換も必要となり、特別支援教育のみの課題ではなく、学校教育全体の見直し作業も必要となることが確認された。これはかなり大きな課題であり、モンゴル国教育省レベルでの取り組みも必要となる。

### ②兵庫教育大学と名古屋大学との連携に向けて

モンゴル国立教育大学が兵庫教育大学と協定を締結したのと同時期に、名古屋大学も同様の協定を締結し、主に特別支援教育に関連する分野で互いに研究交流を行っている。モンゴル国立教育大学と名古屋大学との窓口になっているのがオドゲレル准教授であり、兵教大の窓口である石倉と名古屋大学の担当者がオドゲレル准教授を介して、今回、直接に面会して打ち合わせを行うことができた。

今回の成果として、名古屋大学心の発達支援研究実践センターは主に発達障害（ASD、LD、ADHDを中心とする）分野に重点を置き、兵教大は特別学校の教員養成や知的障害、肢体不自由、聴覚障害などの特別学校で学ぶ子ども達の障害に関する分野に重点を置くことが確認された。これにより、両大学が協調しながら、それぞれにモンゴル国立教育大学と共同研究を行う体制を整えることができた。

### ③K-ABCⅡのモンゴル語版作成に向けて

K-ABCⅡのモンゴル語版作成に向けて、監修者である藤田和弘氏と協議を行った。

著作権の処理などの事務的手続きや、モンゴル側での大規模調査の必要性など、今後に必要な手続きなどについて確認を行うことができた。

必ずしも速やかな実現が可能なプロジェクトではないが、系統的な発達検査や知能検査のないモンゴルにおいては、重要な検査法になることが期待されており、継続的な取り組みが必要である。藤田氏からも、長期的な支援の約束をもらうことができたのは大きな成果である。

### ④講演について

6月30日（火）16:30-18:00に、「モンゴルの伝統教育と特別支援教育」と題して学内講演会を

行った。教員と大学院生あわせて約50名の参加があった(写真参照)。その時の資料を別紙に示す。講演のあと、モンゴルの日常生活のことも含めて、活発な意見交換がなされた。

(b) あなたの専門分野における日本の科学の現状に関する印象と考え

日本の特別支援教育システムは十分に優れたものであり、今後も日本とモンゴルの研究交流を進めていきたいと思う。また、大学間交流がさらに進展することも望むものである。

(c) 特にこのプログラムに関する兵庫教育大学への意見もしくは提案

大変によいプログラムで、これに参加できたことに感謝する。

(d) その他の意見等  
特になし。

